

各関係機関・団体の長 殿（様）

鹿児島県病害虫防除所長

平成17年度技術情報第8号（イチゴの炭疽病，萎黄病，疫病）について（送付）

このことについて、イチゴの炭疽病，萎黄病，疫病に関する情報をとりまとめましたので送付します。

.....
平成17年度 技術情報第8号

イチゴの炭疽病が多発し、併せて萎黄病，疫病の発生も確認されましたので、下記の点に留意し防除指導に努めてください。

記

1．発生状況

- (1) 7月の巡回調査で炭疽病が83%の育苗床で確認され（平年30%，前年56%），その後大半の株が発病している育苗床もでている。
- (2) 現場から持ち込まれた萎凋症状の苗を農試病虫部で診断した結果，炭疽病菌（*Colletotrichum gloeosporioides*）の他に萎黄病菌（*Fusarium oxysporum*）や疫病菌（*Phytophthora nicotianae*）が確認された。

2．防除対策

(1) 育苗床対策

- ア 萎凋症状を起こした苗や葉に炭疽病の病斑が認められている苗は、速やかに持ち出す。持ち出した苗は、土壌や残さを含めてほ場内やその周囲に放置せず、古ビニール等で包み込み、太陽熱で蒸し込んだ後に埋設するなど適切に処分する。
- イ 萎黄病菌や疫病菌は土壌伝染するので、本ぼへの持ち込みを避けるために、僅かでも感染の疑いのある苗（萎黄病:光沢がなくなり、新葉が黄化，奇形となる。疫病:光沢がなくなり，新根が褐変。）は、速やかに育苗床から持ち出し処分する。

(2) 本ぼ対策

- ア 前年，発生した本ぼは必ず土壌消毒する。その際，前作の株等の残さが残っている場合は，完全に取り除く。
なお，萎黄病や疫病が発生した本ぼでは，クロルピクリン剤を用いる。
- イ 本ぼに定植後，萎凋症状を起こした場合，その株は周囲の土壌とともに速やかに取り除く。

(3) 親株苗対策

- ア 炭疽病，疫病の発生が認められた育苗床では，次年度の親株用として新たに無病苗を導入する。導入した親株用の苗は，自家採苗した苗と一緒に管理すると，潜在感染している苗から感染する可能性があるため，必ず区別して育苗する。
なお，自家採苗した苗から発病をみたら速やかに除去し，潜在感染している可能性の低い苗を親株用の苗として供する。
また，親株床は必ず土壌消毒する。
- イ 萎黄病が発生した育苗床では，病徴がでていない苗も感染している可能性があり，病原菌がランナーを通じて苗伝染するため，無病苗の選抜が困難である。
また，一旦本ぼで発生すると防除が難しいので，親株用の苗は全面的に無病苗へ更新する。